

スーパーメルティティッシュのSDGs目論見書

スーパーメルティティッシュを創始した加藤浩夫です。小職は販促・広報・啓蒙活動で使用するポケットティッシュ製造販売を45年余り続けてきました。廉価で貰って便利なポケットティッシュは各業界から受けいられて隆盛してきました。繁華街・商店街等を歩行すると衣服のポケットやバッグが一杯になるほど配布されました。ポケットティッシュの原紙は水に強い素材でトイレに使用することが出来ませんでした。包装に使用しているプラスチックも同様に水に流せず公衆トイレの配管を詰まらせ、街や自然環境の美観を損ねる「小さな悪魔」と化していました。女性アルピニストの故田部井順子氏が理事として勤める「日本トイレ協会」様が、ポケットティッシュが公害問題を引き起こしているというキャンペーンがありました。すぐさまに協会へ赴き解決策の糸口を尋ねました。最初に手掛けたのは、ティッシュの原紙をトイレに使用できる改善案をもって製紙業会社に「水解性原紙」の提供を要請しました。問題は「外装材」です。28年前にトイレに流せる包装資材の開発を始めました。膨大な試作の末に完成しました。が、包装材に掛かるコストが通常のポケットティッシュの外装材に比べて10数倍となり市場には受けられない商品でした。それでも「地球再生保全機構」様が理解を示していただいてすべて水に流せるスーパーメルティティッシュが誕生しました。細々とこの商品の普及活動に精を出しました。近年になって国連提唱のSDGs運動が日本国内で盛んになって地方自治体・公共団体様などが使用する啓蒙品が「脱プラ」志向になりってこの商品が注目されだしました。後述に記していますが便利に使えるプラスチック商品・包装材が廃棄され河川に流れ、海洋に投棄されるプラごみは海洋生物と資源を脅かす存在が大きく取り出されています。作る側としてプラスチックを正しく使う方法や廃棄方法を使う側にしっかりと伝える責任と義務があります。この「小さな悪魔」を駆逐するには皆様のご理解と手助けが必要です。

外装包材も原紙もすべて水（トイレ）に流せるスーパーメルティティッシュは持続可能な世界の実現に向けて開発したプラスチック素材を抑制する製品です。地球環境に深刻な被害をもたらす「プラスチックごみ問題」。世界各国で対策が取られるものの、プラスチックは今後も増え続けると指摘されています。持続可能な未来を実現するために、私たちはプラスチックとどう向き合っていけばよいのか。プラスチックの50%は、一度使っただけで捨てられてしまいます。レジ袋の平均使用時間は、わずか12分とも指摘されています。そんな短時間の使用にもかかわらず、プラスチックは自然に分解されないため、1,000年以上も地球に残ってしまいます。ある意味で、プラスチックは“奇跡”とも言える素材だと思っています。少なくとも、プラスチックに匹敵するような、安価かつ軽量で、耐久性があり、成形しやすく、断熱性にまで優れた素材は実現することは困難だと思っています。特に医療においては衛生を保つ上で、私たちはプラスチックから多大な恩恵を受けています。プラスチックを使わないことが理想ですが、近い将来に実現するのは困難だと思っています。プラスチックの存在自体が問題なのではなく、以下のSDGsが掲げるアクション12・14・15に基づく早急な取り組みが必要と考えています。

12

つくる責任
つかう責任

12 作る責任と使う責任

作る側は正しい使用方法を使用者に告知徹底する責任があります。

使用する側もどう使用（廃棄方法を含む）するかという責任が問われています。

14

海の豊かさを
守ろう

14 海の豊かさを守ろう

使い捨てられたプラスチックは最終的に焼却処分場か海、埋め立て地のいずれかに行き着きます。特に直径5mm以下のマイクロプラスチックは、海で魚の体内に蓄積し、食物連鎖を通じて人体に影響を与える可能性が懸念されています。今、どれだけの量のプラスチックが取り込まれているか？1週間に5グラム、クレジットカード1枚分ものプラスチックが体内に入っています。2022年に発表された研究成果では、マイクロプラスチックが血液から検出されて話題となりましたが、その後、母乳や心臓などからも検出され、さらなる衝撃が走りました。人体への影響が解明されたわけではありませんが、マイクロプラスチックは化学物質と相性が良いといわれています。発がん性のある有害物質が吸着し、体内に取り込まれた結果、健康に悪影響を及ぼす可能性は少なくありません。現にプラスチックが誕生して以来、がんやアレルギーに苦しむ人・重い症状に落胆する患者は非常に増えていると世界中の医学会で難病・奇病の報告・警鐘があります。

15

森の豊かさを
守ろう

15 森の豊かさを守ろう

イギリスから発祥した産業革命以来、化石燃料を天文学的に消費して利便性の良い様々な製品が生み出されました。二酸化炭素が大量に算出され、二酸化炭素を抑制する森林資源も大量に伐採され、その機能が減少して温暖化が進み、地球規模での循環機能が阻害されています。紙資源のリサイクル化を推進して森林再生に努め二酸化炭素の削減が急務な課題です。